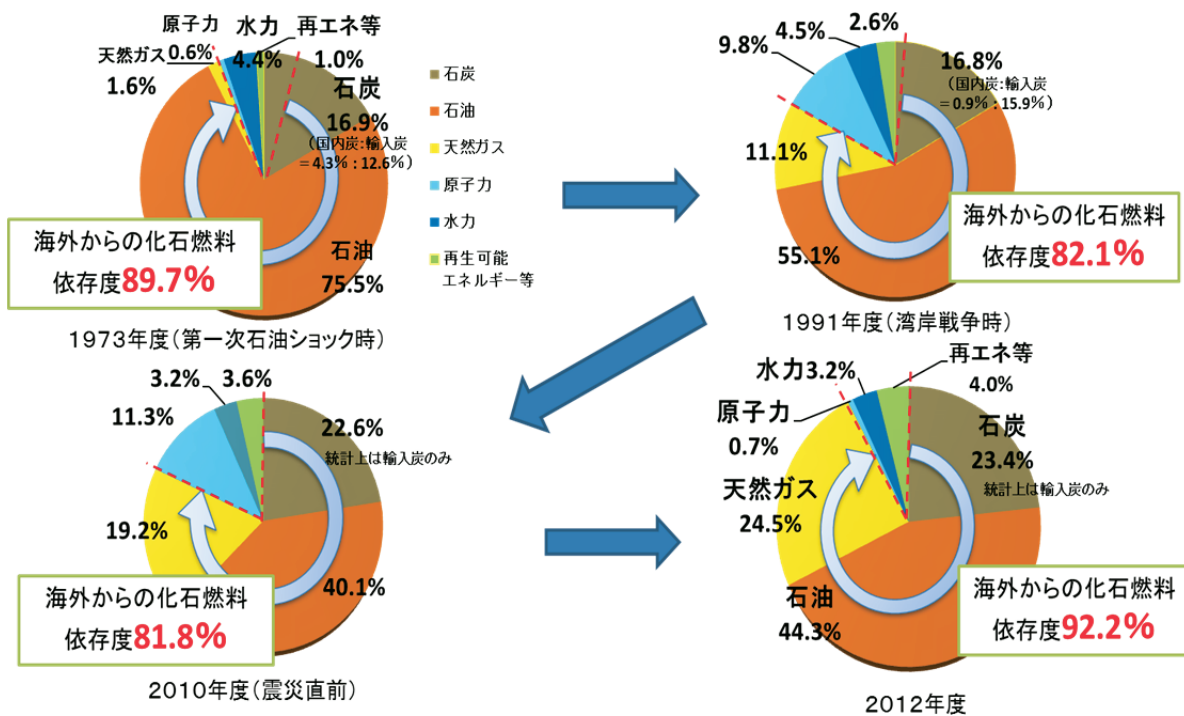


エネルギー白書から シリーズ「我が国が抱える構造的問題」

2 化石燃料の依存度は92.2%に（日本の一次エネルギー供給構造）

日本の一次エネルギー供給における化石燃料の依存度は2012年度に92.2%となり、第一次石油危機（1973年）の89.7%を上回る水準となっています。

【第111-1-2】日本の一次エネルギー供給構造の推移



(注) 2010、2012年度の国内炭割合は、石炭供給量の1%程度ある。
出典：資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」を基に作成

一次エネルギー供給構造についてみると、石油、石炭、天然ガスといった化石燃料に大きく依存する構図は、第一次石油ショック時から変わっていません。原子力発電所が停止した結果、一次エネルギー供給における原子力の割合が、震災直前（2010年度）の11.3%から2012年度には0.7%に低下したことにより、化石燃料の依存度は、震災直前（2010年度）の81.8%から2012年度には92.2%（10.4ポイント上昇）となりました。海外から輸入した化石燃料

への依存度は、第一次石油ショック時（1973年度）の89.7%を上回る水準となっています。燃料別にみると、石油は40.1%（2010年度）から44.3%（2012年度）に4.2ポイント増加、天然ガスは19.2%（2010年度）から24.5%（2012年度）に5.3ポイント増加、石炭は22.6%（2010年度）から23.4%（2012年度）に0.8ポイント増加しました。

2010年度から2012年度の一次エネルギー供給構造に占める割合の増加率が最も高いLNG（液化天然ガス）は、原油と比較すれば地域偏在性が低いものの、中東地域に依存する割合が震災前（2010年）の22.5%から、2013年には29.7%に上昇しています。

特にカタールは、2010年には第4位のLNG輸入相手国でしたが、2013年には第2位となり、輸入量も763万トンから1,606万トンへとほぼ倍増しています。